

ミニトーク

大学の歴史を訪ねて

東京海洋大学附属図書館司書

岩松 浩子



目次

- 1 水産伝習所設立まで
- 2 水産伝習所
- 3 水産講習所 越中島校舎の変遷
- 4 大学の歴史の中の人々より
 関沢明清 村田保 松原新之助 伊谷以知二郎
 高碓達之助 中島董一郎
- 5 雲鷹丸 ほかの練習船
- 6 校舎接收から東京復帰まで

水産行政・水産教育のはじめ

- 1 水産行政機関設立
明治10年 内務省勸農局に水産係が置かれる。
- 2 日本はもっと水産業に力を入れるべき。
明治13年 ベルリンでの**村田・松原会談**
- 3 水産専門雑誌生まれる。
明治13年水産研究のため、「水産社」結成
本邦初の水産雑誌：「中外水産雑誌」発行
- 4 有力な水産団体発足
明治15年 大日本水産会創立



初期の水産教育機関

- 初の水産教育機関:3か月で廃校
明治20年9月 藤川三溪が大日本水産学校設立
- 初の官設水産教育機関:1回の生徒募集のみで中止。
明治20年12月 東京農林学校簡易科水産科
* 東京農林学校は現在の東大農学部の前身



やっと生まれた水産教育機関

- 業界から実務的な短期水産教育機関設立の要望
輸出水産物品質改良のため水産技術者の養成必要
- 大日本水産会
水産伝習所設立の要項、創立委員委嘱、創立趣意書、
規則草案作成、寄付金募集
- 背景
村田・松原会談(明治13年)
大日本水産会設立
多くの人々の永年の努力



水産伝習所設立

- 明治21年 水産伝習所設立認可
- 明治22年1月20日 開所式
 - 当初は修学1年、明治27年に3年となる
 - 明治26年 芝区三田四国町に校舎新築
 - 財政窮乏・赤字経営、存廃問題、村田保が生徒養成費として補助金獲得



芝区三田四国町当時の校舎

第一回水産伝習所卒業生記念写真

明治23年2月22日



内村鑑三

伊谷以知二郎

官立水産教育機関の要望

- 明治28年 村田保が官立水産教育機関設置を農商務省に上申
- 農商務大臣が水産調査会に対し、水産教育機関の官設・私設の得失について諮問
- 同調査会より「官設を可とする」旨、答申
- 明治29年 第9回帝国議会の衆議院で水産講習所官設に関する建議案提出・可決
- 第10回議会で農商務省が水産講習所設立予算として12,880円を提出・通過
- 明治30年3月22日 官制公布



水産講習所設立

- 明治30年発足
- **官立の水産教育機関**
- 農商務省所管
- 越中島に校舎建設(明治35年)
- 練習船、実習場も順次充実
- 大正11年 4年制となった。
- 多くの水産技術者を輩出。
- 昭和4年 試験部、および海洋調査部が新設の水産試験場として分離。
- 昭和20年12月 校舎接收
- 昭和21年下関分所開設
- 昭和22年 第一水産講習所と改称 同5月久里浜に移転

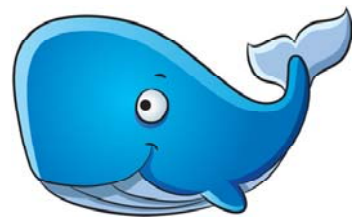


越中島校舎の変遷

- 明治35年完成（元陸軍越中島調練場跡に商船学校と並んで建設された）
- 明治44年7月25日 台風による高潮の被害甚大
- 大正6年9月30日 台風による被害 隣の商船学校ドックに係留されてあった明治丸が運動場中央に打ち上げられていた。
- 大正12年 **関東大震災**後の火災で校舎焼失。所蔵図書2万冊を失う。雲鷹丸、隼丸が活躍。震災直後は雲鷹丸を水産講習所本部とした。その後、中野の蚕業試験場の一部を借りて授業再開。
- 昭和20年**3月10日の大空襲**は本所、深川を中心に行われ、寄宿舍全焼。本館はコンクリートのため焼失を免れた。

関沢明清(せきざわ あけきよ)

- 加賀藩から密許を得て英国に密航し3年滞在
- 米国博覧会に出張、魚類の養殖など学ぶ
- 大久保利通に水産の重要性を建議
- 建議により内務省に水産係設置、主任
- 初代水産伝習所長として一方ならぬ苦勞
- 退職して捕鯨、マグロ漁
- 心臓病で逝去 享年55歳
- 没後、館山に建碑



村田保(むらた たもつ)

- 第2代水産伝習所長
- 法律家
- 村田・松原会談で祖国日本の水産振興を誓う
- 政治的手腕により水産伝習所の財政難を克服
- 水産伝習所を官立とすることを強く上申
- 水産法制の立法化の功績により「水産翁」の称号賜る
- 馬術が得意で曲乗りもこなした。自ら馬法魚居士と称した。
- 議会で山本権兵衛首相を公然罵倒し、議会を騒がせたことを謝して、議員辞任。すべての公職を辞す。
- 村田水産翁碑が丸池の近くにあります。



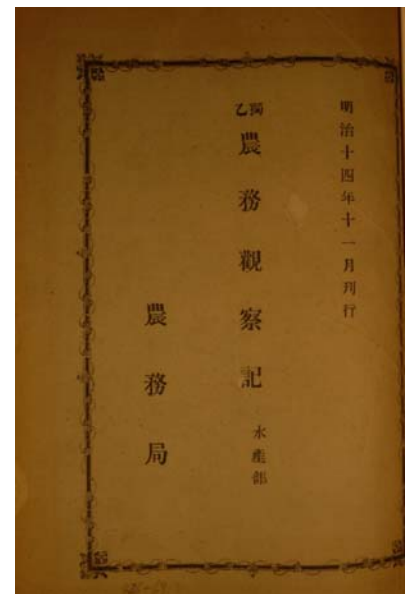
松原新之助(まつばら しんのすけ)

- 水産講習所初代専任所長。水産教育に多大な貢献
- 日本人による初めてのラテン語学名を付した「日本産魚類目録」作成。(本文独語)
- 初めて全国的な水産の学術調査実施。
- 村田・松原会談は水産講習所設立の重要な布石
- 茶の湯、插花、料理が趣味。茶室を郷里松江より原宿の自宅に移設。
- 漢詩、書も巧み。
- 中部講堂前に胸像



獨乙農務觀察記(28才)

- ドイツ出張の復命書。水産部、農學部、農務省處務部の3分冊で刊行された。
- 本書には水産保護、水産法規、養殖、水産協会、水産学術調査等が記載され、大日本水産会の結成に影響を与えた。



水産調査予察報告(36~40才)



- 明治21年、かねての念願だった全国の水産調査を水産局長に提言して受け入れられ、全国を五海区に分け調査した。
- まず予備調査を行った後に本調査。
- 松原は3年にわたり沖縄・瀬戸内海・東北を調査主任として調査した。
- 松原氏の事業としては其功績の大なるは水産教育にあるは何人も否認せざる所なるべきも其心力を傾注したるは蓋し水産調査にあったであろう。(下啓助「明治大正水産回顧録」)

雲鷹丸最初の航海出帆に当たり訓示(56才)

- 科学に貢献し世界の人材となることをめざして勉学し実行することを説いており、105年後の現在読んでも新鮮
- 「一方に於ては水産調査船として科学上の貢献を為さんことを期し、他方に於ては事業に関し世界的の人物を作るを以て目的とす。」
- 「本所は従来経費の許す限り凡ての方面に於て完備を期し、完全なる設備を以て完全なる人物を作るを大方針とす。蓋し完全に養成せられたる人物にして始て不十分なる境遇に立ち錯誤なきことを得ればなり。」

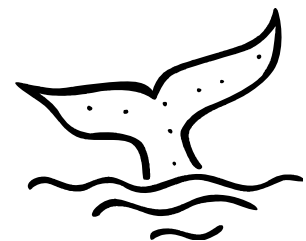
伊谷以知二郎(いたに いちじろう)

- 水産講習所第3代所長として多大な功績
- 業界の大御所、世話役、指導者として水産及び缶詰業界に大きな足跡を残した。伊谷亡き後伊谷なしとまでいわれた偉大な存在。(日本缶詰史より)
- 昭和3年大日本水産会長、同7年日本水産学会初代会長、
- 大正13年退職後は勸業銀行理事



軍用缶詰として鯨缶詰製造(30才)

- 大日本水産会が銃後の報国運動として缶詰献納計画。製造は伝習所生徒が奉仕。材料の提供を一般に呼びかけた。
- 関沢明清氏から槌鯨1頭寄贈。
- 伊谷以知二郎は製造の陣頭指揮。
- 酷暑の館山で2800個の缶詰を製造し勇魚大和煮と名づけて献納。



水産講習所長として学制改革(58才)

- 大正8年の学生からの水産講習所内容充実の提案をきっかけとして、具体案検討、成案、予算計上、申請、議会提出、実現。
- 改正要点
 - ・修業年限を3年から4年にする。
 - ・入学資格を中学4年以上又は甲種水産学校卒業またはこれに準ずるものとする。
- 数学・物理・語学など基礎学科を増加して基礎的学力の充実をはかる。
- 専攻科を設ける。
- 試験部を充実する。



多くの人に非常に大きな影響を与えた

- 当時、水産製造関係の相談事は水産講習所に持ち込まれることが多く、伊谷は技術を紹介し、人や資金をあっせんした。
- 教え子の借金の保証人は全部引き受けたため、伊谷家の家財道具は差押えの赤紙ののりのかわく暇がなかった。
- 常に水産教育と水産業界の発展をめざして粘り強い努力を続けた。
- 伊谷が亡くなった時には 水産業界、缶詰業界、水産講習所同窓会のそれぞれの機関誌が追悼号を出し、故人の死を悼んだ。
- 後に総理大臣となった鈴木善幸氏が伊谷の晩年に秘書として仕え、その志の高さに深い影響を受けたことも特筆に値する。



高碓達之助 (たかさき たつのすけ)

- 明治39年水産講習所製造科卒業
- 製缶と缶詰製造の分離の重要性をとらえ、東洋製罐株式会社を設立
- 満州で日本人引き揚げに尽力
- 電源開発総裁としてダム建設に関わり、経済審議庁長官も歴任
- 第一回アジア・アフリカ会議(インドネシア・バンドン)に日本代表として出席し、周恩来とのパイプを作り、後の『日中覚書貿易』昭和47年の『日中国交回復』に繋げる
- 衆議院議員に当選後、農水大臣、通産大臣を歴任し、日ソ漁業交渉にあたる

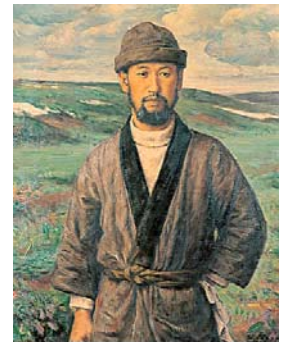
数えきれないエピソード

- 水産講習所卒業時に成績優等者として表彰された。
- メキシコに行くときの船賃は伊谷先生が都合。
- メキシコに赴任した時にスパイ容疑を受け、旧知のスタンフォード大学総長で世界的な魚類学者のデイビッド・スター・ジョルダン博士に助けられる。また総長から、後にアメリカ第31代大統領になるハーバート・フーバーを紹介される。
- 中島董一郎に“かぶとを脱いだ”
- 生来の動物好きでワニ、ニシキヘビ、ダチョウなどを飼育



中島董一郎 (なかしま とういちろう)

- 明治40年水産講習所製造科卒業
- キューピーマヨネーズの創業者
- 29歳の時に農商務省海外実業練習生としてロンドン、シアトルに渡り、缶詰業について学ぶ。この時にマーマレードとマヨネーズに出会う。
- 日本人の生活が欧風化してきたことを見てマヨネーズ事業を立ち上げた。
- 厳選した材料で徹底的に品質の良い製品を作り一代で売り上げを伸ばして会社を拡大した。
- 伊谷以知二郎と高碓達之助を尊敬。



創業者 中島董一郎の肖像画

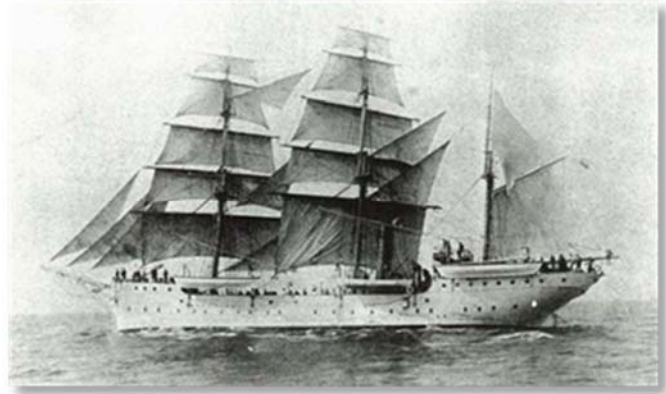
金の兜

- 中島董一郎がみかんの缶詰の有望性を高碓達之助に話したところ、あまり期待できないと言われた。
- ところが、みかんの缶詰は高碓の予想に反して成功したため、「兜を脱ぎました」という意味をこめて、昭和9年2月 丸の内ホテルにて高碓達之助より中島董一郎に金の兜の贈呈式。伊谷氏ほか出席。
- 戦後の一文無しの時に売却。
- 昭和30年頃、買い戻されて思い出の丸の内ホテルで中島氏の手元に戻った。



雲鷹丸

- 今から105年前の1909年(明治42年)に竣工
- カムチャッカ漁場開拓、蟹缶詰製造試験成功、海洋調査、漁具・漁場の改良に功績
- 約20年間、主に夏は北洋、冬は南洋を巡航して水産講習所学生の実習、調査、試験に活用。



悲喜こもごものドラマ

- 1 初代練習船快鷹丸が韓国迎日湾で台風のために難破し、教官・学生4人が亡くなるという悲惨な事故の後に代船として建造
- 2 船上で初めて蟹缶詰を製造し、後の蟹工船への可能性を拓いた。
- 3 捕鯨実習の事故で2名死亡
- 4 関東大震災で被災者約500人を救助
- 5 国登録有形文化財指定

練習船

- 白鷹丸
当時、練習船として最高の設備を誇る船
戦況悪化に伴い輸送船として徴用
昭和19年2月26日 硫黄島からの帰途、
魚雷を受けて撃沈される。
- 海鷹丸 二世
昭和31年 宗谷の随伴船として南極航海
文部大臣ほか約5,000人の盛大な見送り
- はやぶさ丸
昭和29年 ビキニ環礁で被爆した第五福竜丸
を除染し改装して練習船として使用



校舎接收

- 昭和20年10月 隣の商船学校が接收される
- 同12月 水産講習所校舎本館も接收
- 昭和21年1月 商船学校寮に移転
- 昭和22年 久里浜の旧海軍通信学校に移転
- 米軍、復員局、保安庁管船部がそれぞれ利用
- 将来的にはかなり広い全施設を利用できる約束



水産大学設置運動

- 大正14年 水産教育調査会
楽水会に水産教育調査会が設けられ伊谷以知二郎ほか52名の委員により十数回の委員会が開かれ水産大学案が作成された。
- 昭和2年 水産単科大学期成同盟会
- 全国15の有力水産団体をまとめて期成同盟会を組織し「水産大学設置促進に関する陳情書」を総理大臣ほかに提出
- 昭和13年、昭和19年に引き続き関係省庁に要望を提出したが実現に至らなかった。

東京水産大学へ

- 昭和23年4月 水産大学期成委員会組織
- 昭和23年10月 東京水産大学設置認可申請書文部省に提出。
- 昭和24年5月 新制大学、東京水産大学誕生
- 全国72の大学がほとんど同時期に誕生
- 昭和25年 文部省へ移管



久里浜校舎接收

- 昭和24年11月 米軍が使用していた建物4棟が引き渡され、文部省に予算要求をして施設整備を行った
- 昭和25年6月 整備した建物に移転完了
- ところが、同8月 米軍が突然明け渡し要求
- このため元のバラック校舎に戻った
- 次いで警察予備隊が入り、久里浜での大学建設は絶望的となった。越中島校舎にも25年11月予備隊が入り、越中島校舎復帰も当分見込みがなくなった。



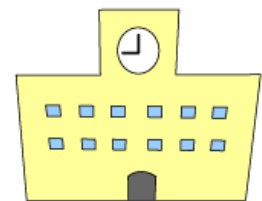
校舎獲得運動

- 久里浜での大学建設が絶望的となったため大学当局は直ちに校舎獲得に乗り出すが候補地はいずれも不調。
- 昭和26年 文部大臣及び国会議員が視察
- 昭和27年3月19日 参議院本会議での高田議員の演説
「便所を改造した実験室で、、、研究にいそしんでおります。、、、一日の憩いを求める寄宿舍は雨風吹き込む荒れ果てた室内に荒筵を敷き、これに床をのべて休養をとっている、、議員の中でも網走刑務所以上だとこの窮状を断じておりました。」
- 学生も街頭署名運動、デモ。
- デモは世論の反響を呼びマスコミは同情的な報道
- 旧海軍経理学校跡が有力候補(現品川キャンパス)



東京復帰なる

- 昭和27年7月 東京移転が確実になった。
- 開校のために、新たに楽水橋を架橋した。
- 橋の名前は学内で募集し、最も多かった名称
- 昭和29年6月 文部大臣始め来賓の臨席のもと開通式
- 昭和29年9月20日 品川校舎開校式
- 東京復帰記念文化祭、同運動会、同式典
- 越中島校舎の接收以来9年間の苦労を経てやっと校舎を獲得



参考文献

- 東京水産大学七十年史 東京：東京水産大学創立七十周年記念会，1961.5.
- 東京水産大学百年史 / 東京水産大学百年史編集委員会編 通史編，資料編. - 東京：東京水産大学，1989.4.
- 楽水の人びと抄 / 楽水の人びと抄編纂会 東京：生物研究社，2005.12.
- 松原新之助 <http://lib.s.kaiyodai.ac.jp/library/tenji/matsubara.html>
- 雲鷹丸
<http://lib.s.kaiyodai.ac.jp/library/tenji/unyomaru.html>
<http://lib.s.kaiyodai.ac.jp/library/digital/Unyo-maru/index.html>
- 伊谷以知二郎
<http://lib.s.kaiyodai.ac.jp/library/tenji/5itani/itani.html>
- 伊谷以知二郎、高碓達之助、中島董一郎
 - 伊谷以知二郎
http://lib.s.kaiyodai.ac.jp/exhibition/slib10_seafoodcan/?action=common_download_main&upload_id=2070
 - 高碓達之助
http://lib.s.kaiyodai.ac.jp/exhibition/slib10_seafoodcan/?action=common_download_main&upload_id=2072
 - 中島董一郎
http://lib.s.kaiyodai.ac.jp/exhibition/slib10_seafoodcan/?action=common_download_main&upload_id=2073